

平成27年度 大田区立大森第三中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

◆教育目標	社会の一員としてたくましく生き抜く人間性豊かな生徒の育成をめざし、以下の目標を掲げる。
◆学校規模	○人権尊重の精神と態度を育てる。 ○豊かな情操と健全な心身を育てる。 ○自主性を伸ばし創造性を育てる。 ○自ら進んで学ぶ態度を育てる
◆本校特色	生徒数482名、学級数13学級 ・数多くの地域行事・ボランティア活動への参加（新井福祉園運動交流会、敬老の日紙ボランティア、ガーデンパーティ、日赤フェスタ、地域清掃など） ・生徒会や各種委員会を中心とした生徒主体の活動（生徒会朝礼、いじめ撲滅運動、学校行事や学年行事での実行委員会組織による企画・運営など） ・スクールサポート三中（学校支援地域本部）を中心とした学校と地域の協働体制による充実した教育活動の展開（図書室ボランティア、職業講話講師、職場体験受入先、土曜補習教室講師、部活動支援など）

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	4. 学習に積極的に取り組んでいる生徒の割合と学習効果測定の内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ80%以上 3. 学習に積極的に取り組んでいる生徒の割合と学習効果測定の内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%以上 2. 学習に積極的に取り組んでいる生徒の割合と学習効果測定の内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%未満 1. 学習に積極的に取り組んでいる生徒の割合と学習効果測定の内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ40%未満	2	各学期末三者面談時に学習カウンセリングを実施し、区学習効果測定・国学力学習状況調査・教科評定及び数学チェックシート等を資料に個に応じたアドバイスを行った。「学習に積極的に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒は86%に達し、前年度より5%上昇した。ただし、学習効果測定の内平均正答率は前年度より0.2%上昇し59.4%となったが未だ60%に届かない状況であるため、学力向上にむけて教員の授業力向上と家庭学習のさらなる定着を図る。	・昨今英語力の必要性を実感しています。リスニング・スピーキングの充実を切望します。 ・さらなる御指導をお願いします。 ・学習意欲と学力の向上への取組及び定着を望みます。 ・生徒の「積極的に学習に取り組んでいる。」の評価が、成績に結びついていないようです。学習に対して苦学意識をもっている生徒を、保護者や地域で支えていける工夫も考えたいです。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 不登校出現の未然防止を図るとともに、不登校問題に係る取組を実施し不登校傾向を示す生徒の学校復帰率を伸ばす。	4. 生徒へのアンケートの設問「学校の決まりを守っている。」での肯定的な回答が80%以上 3. 生徒へのアンケートの設問「学校の決まりを守っている。」での肯定的な回答が60%以上 2. 生徒へのアンケートの設問「学校の決まりを守っている。」での肯定的な回答が60%未満 1. 生徒へのアンケートの設問「学校の決まりを守っている。」での肯定的な回答が40%未満	4	全国学力学習状況調査「自分にはよいところがある」との質問に肯定的に回答した割合は72%で、全国・都の平均と比して4%高く、自尊感情を高める結果を得ることができた。さらに、学校生活調査とともにQ-U調査を分析することによって、諸問題を抱える生徒への個別の支援を行った。併せて、「学校の決まりを守っている」との質問に肯定的な回答をした生徒は93%に達している。今後も集団の質を高める取組を継続していく。 不登校生徒（欠席数30日以上）出現率は3.75%で昨年度比-1.5%となったが都・区と比較すると約1%高い。また、不登校生徒（18名）を対象に、週2日以上登校できるようになったことを指標と定めたところ、学校復帰率は44.4%（8名）となった。今後はより一層、不登校傾向を示す生徒への早期対応と相談体制の充実を図る。	・不登校生徒への取組を引き続き頑張ってください。 ・「学校が楽しい」「友達とおしゃべりたい」生徒みんなが学校に来れるようにいつでもお手伝いします。 ・素晴らしいと思います。 ・いじめや不登校を未然に発見し、組織的に早期対応することを期待します。 ・前年度の研究推進・発表の成果が出ています。不登校の問題などについては、保護者や地域でも学習機会を設定するなど、生徒や家庭をサポートしていけるとよいと考えます。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4. 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的な回答が80%以上 3. 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的な回答が60%以上 2. 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的な回答が60%未満 1. 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的な回答が40%未満	4	生徒の83%が「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的に回答した。ただし、中学校の教員特性として教科担任制ゆえに、運動会以外では全ての教員が体育的指導に携わることにつながっていない。今後は基本的な生活習慣の定着促進とともに、校区における小中一貫した体力向上の取組を行い、補強トレーニングや一校一取組に全教員が関わることを通してさらなる健康・体力向上を図る。	・「早寝・早起き・朝ごはん」保護者への意識啓発を今後とも推進してください。 ・素晴らしいと思います。 ・成長期にある子供たちのためには、食事・睡眠が重要だと思います。 ・中学校の場合は教科担任制をとっているため、全ての教員が体育に関わるのは難しいと考えます。東京オリンピック・パラリンピックに絡めて、障害者スポーツの体験などを増やすとよいと思います。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 基礎的な学習内容を確実に定着させるため、精選した課題を与えて家庭学習時間の増加を促す。	4. 生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」と及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」と肯定的な回答がともに80%以上 3. 生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」と及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」と肯定的な回答がともに60%以上 2. 生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」と及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」と肯定的な回答がともに60%未満 1. 生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」と及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」と肯定的な回答がともに40%未満	4	タブレット端末や電子黒板等ICT機器を効果的に活用した授業を展開するため、ICT教室の計画的な使用管理を綿密に行い、効率よい授業稼働を促進するとともに、教員の指導技術向上を目指す。「わかりやすい授業が多く満足している」と肯定的に回答した生徒は、昨年度比+7%の87%となった。また授業以外の学習環境の満足度も84%となり、土曜補習教室への参加生徒数も昨年度比+10%となった。生徒の学力向上を重要課題ととらえ、区学習効果測定及び国・都の学力調査の結果を分析し、各教科の年間指導計画・評価評定基準を見直すとともに、さらなる教育環境向上と教員の授業力向上を推進し授業改善に努めていく。	・ICT機器の活用については、工夫して増やす努力をしてほしい。授業の優先順位付けや計画的に競合を調整するなどして、今あるものを有効に活用してほしいと思います。視聴覚にうったえることで授業理解が進むこともあると思います。 ・家庭学習時間が増えたことはよいことだと思います。 ・素晴らしいと思います。 ・学校公開日にうかがったとおり、引き込まれる授業があります。実技教科の授業では思わず聞き惚れました。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4. 保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が80%以上 3. 保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%以上 2. 保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%未満 1. 保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が40%未満	4	学校支援地域本部と緊密な協力体制を構築し、年間のべ30名ほどの学習支援ボランティアを手配し、個々の習熟の程度に応じた手厚い補習教室を実施することができ、土曜補習教室への参加生徒数も昨年度比+10%となった。今後も図書ボランティア・園芸ボランティアの充実も含め、地域力を生かした教育環境整備を図るとともに、PTAや地域教育連絡協議会・学校支援地域本部との連携をさらに深めていく。「学校は教育活動の様子をよく伝えている」と肯定的に回答した保護者は91%であったが、「学校からの配布物等が保護者にわたっている。」への否定的な回答は35%に達している。家庭の意識変革を啓発するためにも、生徒指導を通して学校からの情報が確実に家庭に届く方策を行っていく。	・ボランティア活動を通じた地域と生徒のかかわりについて、地域が三中生への見方を変えてきました。素晴らしいことです。 ・素晴らしいと思います。 ・学校・地域・家庭などの各団体が核となり、協力して生徒の活動を支援しています。次は、生徒に地域が行っている活動などを理解させることが必要だと考えます。 ・地域の学校活動への協力はもちろんです。が、生徒たちの地域行事へのボランティア参加も増えており素晴らしいと思います。次年度も、この傾向が続くとよいと思います。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。